

◆ 今週のコメント

- ・ レジオネラ症の報告が1例あります。累積報告数は18例で、平成11年～平成19年の同時期(0例～15例)と比べ最も多くなっています。累積報告数の内訳は、性別では、男13例、女5例、年齢階級別では、30歳代1例、50歳代1例、60歳代以上16例、推定感染経路では、水系感染6例、じんあい感染1例、その他11例です。全国でも累積報告数は、820例で平成11年～平成19年の累積報告数よりも多くなっています。
- ・ アメーバ赤痢の報告が1例あり、累積報告数は17例です。累積報告数の内訳は、性別では、男14例、女3例、年齢階級別では、40歳代が5例と最も多く、推定感染地域では、国内14例、国外3例、推定感染経路では、性的接触10例、その他7例です。
- ・ 感染性胃腸炎の定点当たり報告数は5.93で、第47週(7.15)に比べやや減少しましたが、全国では増加しています。
- ・ 水痘の定点当たり報告数は1.10で、第41週以降、増加傾向を示しています。
- ・ RSウイルス感染症の定点当たり報告数は0.29で、過去4年平均値(0.13)に比べ多い状態が続いています。

◆ 今週のトピックス: <インフルエンザ>

- ・ インフルエンザの定点当たり報告数は0.40で、5年平均値(0.34)を上回っており、例年に比べ、やや早い立ち上がりです。
 詳細をトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

- ・ 二類: 結核 3例(喀痰塗抹陽性 1例, 無症状病原体保有者 1例)
 【1月以降の累積報告数 344例(喀痰塗抹陽性 107例, 無症状病原体保有者 29例)】
- ・ 四類: レジオネラ症(肺炎型) 1例【1月以降の累積報告数 18例】
- ・ 五類: アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例【1月以降の累積報告数 17例】

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ	インフルエンザ	0.40	27
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	5.93	243
	② 水痘	1.10	45
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.49	20
	④ 手足口病	0.32	13
	⑤ RSウイルス感染症	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.30	3

病原体情報

ありません。

【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス: <インフルエンザ>

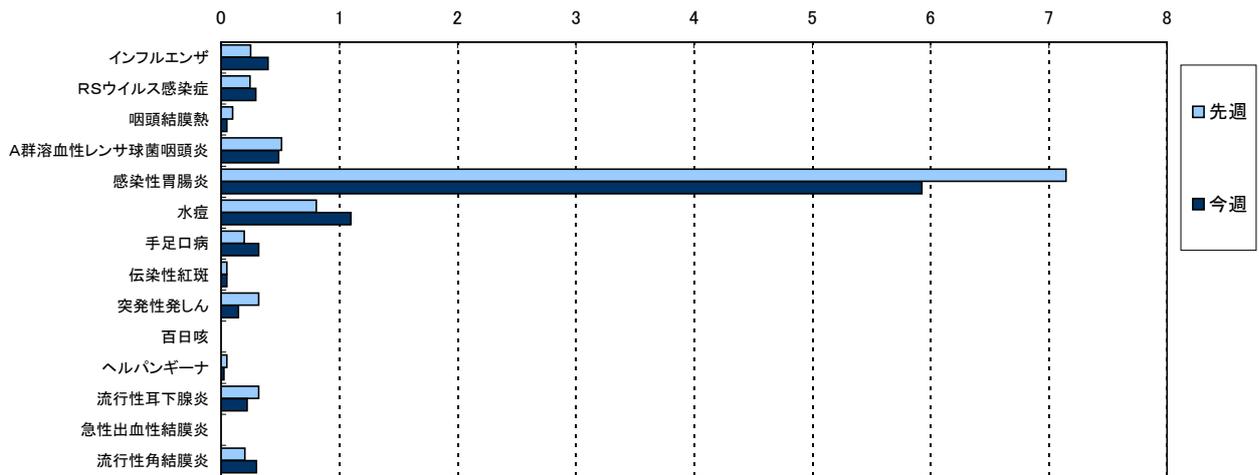
(注) 京都市のデータは、平成20年12月4日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。

また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。

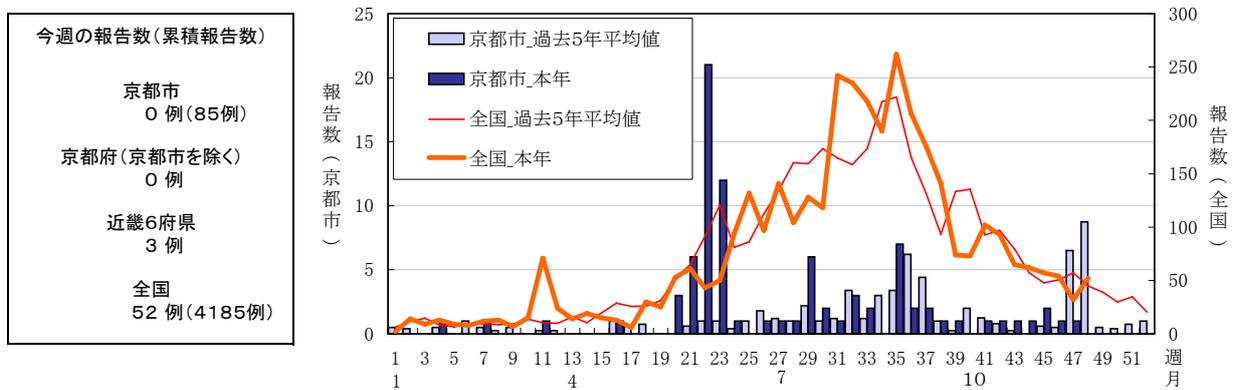
病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第48週)と先週(第47週)の定点当たり報告数の比較

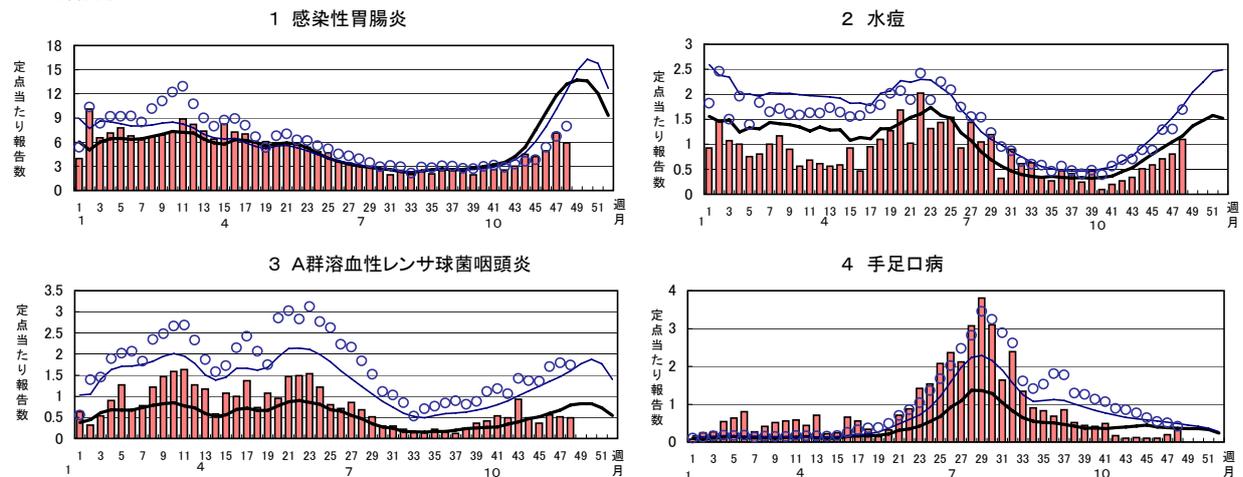


2 腸管出血性大腸菌感染症(三類感染症)の推移

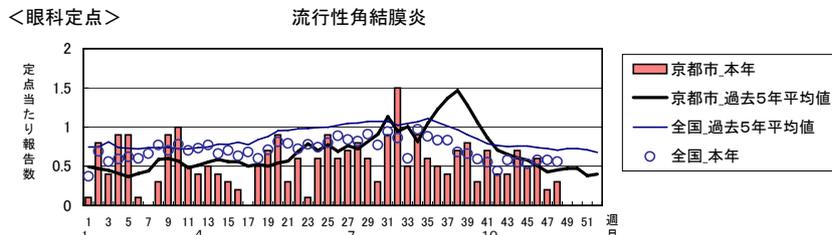


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>

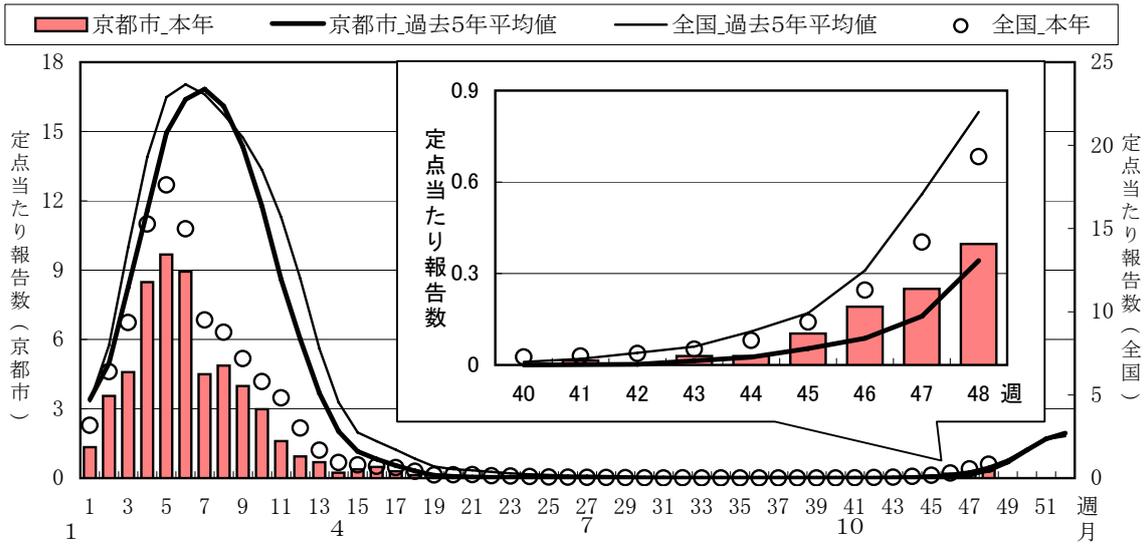


今週(第48週)のトピックス: <インフルエンザ>

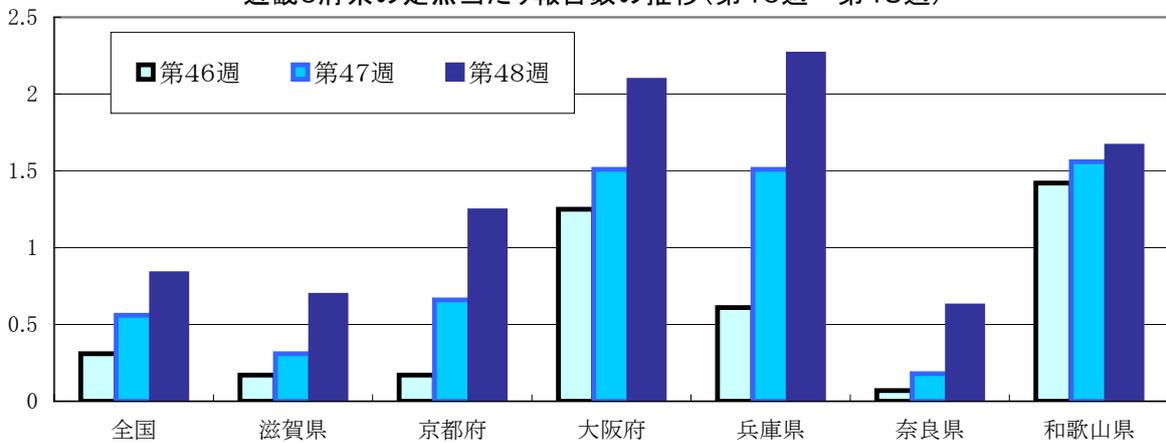
インフルエンザの定点当たり報告数は0.40で、5年平均値(0.34)を上回っており、例年に比べ、やや早い立ち上がりです。近畿6府県の定点当たり報告数は、全府県とも第46週以降増加しており、第48週では、京都府、大阪府、兵庫県及び和歌山県が1.0を超えています。また、今シーズンのインフルエンザウイルスは、本市では、B型が1例報告されており、全国では、12月8日現在、A(H1)型27例、A(H3)型60例、B型38例となっています。

年齢階級別割合をみると、0～4歳及び30歳代が各33.3%を占め、最も多くなっていますが、全国では、5～9歳が最も多くなっています。

全国及び本市の定点当たり報告数の推移



近畿6府県の定点当たり報告数の推移(第46週～第48週)



年齢階級別割合

